

「なぜ国はこんなにも消費税を上げてくるのか。」と考えていた自分は変わらなくてはならない。そう思わせてくれたきっかけは、まだ幼い頃の自分だった。

私は元気に生まれてきた。両親も大喜び。そして、大きくなるまで変わらず健やかに成長した。という生活を望んでいた。だが、実際には違う。私は生まれてくる前から一つ、そして生まれて間もないときに一つ、心臓に関わる大きな病気を抱えていた。

私の家はお金持ちではなかった。手術代などには多額のお金が必要となる。さらに、一年に一回の検診にも行かなくてはならなかった。全額を家族が負担するなんて到底考えられなかった。

そんな中、私を助けてくれた一つが、税金。福祉医療費だった。福祉医療費助成制度というのは、重度の心身障害者、乳幼児、一人親家庭の人が使うと病院へ払う自己負担額が安くなるというものだ。私もこの対象者となり、直接的にはではないものの、多くの手助けをしてもらった。そして、現在に至るまで、病気などなかったかのように過ごすことができた。

日々のニュースを見る。「消費税の税率が8%から10%に引き上げ」、「増税による物価上昇」…。そこで思ってしまう。「なぜ国はこんなにも消費税を上げてくるのか。」と。しかし、こうも思う。なぜ増税するのか、自分が一番わかるのではないだろうか。自分が一番、わからなければいけないのではないか。そして、今思う。私が今、健康に生きられているのは税金というものがあつたからなのだ。岐阜県の人々、国民の方のおかげといっても過言ではないだろう。

私の今までの税金に対するイメージ。高い、何円かかるか計算することが面倒くさくなる。今の税金に対するイメージ。自分自身だけでなく、他に苦しんでいる人を助ける一つのアイテム。税金はもちろん医療関係だけに使われるものではないが、少なくとも自分の中で税金に対するイメージはそう変わっただろう。

税金に対していい考えをもたない人はどこにでもいると思う。何てったって自分のお金だし、直接的に関わって寄付をしているわけでもないから実感もわからない、義務だから何となく払っているだけ。そんな方にぜひ伝えたい。実際にその税金によって助けられた人がいます。負担を減らすことができた家族がいます。私はそれを身にもって体感することができた。だからこそ、税金というものに感謝の気持ちをもたなくてはならない。私はまだ中学生で税金についての知識も浅い。ましてや働いてもいないため自分で税金を納めているわけでもない。だけど、自分のように税金によって助けられている命があることを理解することは大切だ。私が将来、働いてお金が得られるようになったら、税金の意味、そして救われている命を考えて支払っていきたい。